

## 会 議 概 要 書

審議会等の名称	平成 29 年度 第 5 回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会議の開催日時	平成 30 年 3 月 13 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3 階 特別会議室
出席者(職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員 15 名 (出席者 13 名 : 敬称略) 佐藤 和美、杉浦 聖、川島あつ江、諸井 康代、 安間真由美、安藤 浩子、鈴木 昇、松尾 陽子、 今泉 佳代、鳥山 博好、出羽 正二、今村 信大、 豊田 榮、 (欠席者 2 名 : 敬称略) 村田 慎哉、清 真人</li> <li>・ (事務局 4 名) 環境課長、課長補佐、環境保全グループ 副主任 2 名</li> </ul>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 次磐田市環境基本計画 (最終案) について</li> <li>・ 第 1 次磐田市環境基本計画 (後期基本計画) の評価について</li> </ul>
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成 29 年度 第 5 回磐田市環境市民会議次第</li> <li>(2) 磐田市環境市民会議委員名簿・席次表</li> <li>(3) 第 2 次磐田市環境基本計画 (案) についての意見 (パブリックコメント) 及び回答</li> <li>(4) 第 1 次磐田市環境基本計画 (後期基本計画) の評価</li> <li>(5) 後期基本計画の数値目標の達成状況 (年度ごと一覧)</li> <li>(6) 第 2 次磐田市環境基本計画 (案)</li> </ul>

概 要	<p>※会議の発言内容、審議経過等を記載</p>
	<p>会議（司会：環境課課長補佐）</p> <p>(1) 開会（環境課課長補佐）</p> <p>(2) 環境課長あいさつ</p> <p>(3) 会長あいさつ</p> <p>(4) 議事（議長：佐藤会長）</p> <p>    〈1〉第2次磐田市環境基本計画（最終案）について</p> <p>    〈2〉第1次磐田市環境基本計画（後期基本計画）の評価について</p> <p>【説明概要】事務局（環境保全グループ 副主任）</p> <p>・議事(1)第2次磐田市環境基本計画（最終案）について、資料を用いて説明した。</p> <p>【質疑応答・意見交換】</p>
会 長	<p>計画（案）20 ページ、目標 5-2「地域の特色を活かした再生可能エネルギーの普及促進」とあります。低炭素型社会を推進するためにも再生可能エネルギーの普及促進は必要だと思います。11月の環境市民会議で、バイオマス発電の話が出ていました。地域の特色を活かした再生可能エネルギーの観点から考えると、バイオマス発電についても磐田市の地域の特色を活かした新しいエネルギーの求め方と考えられるのではと思いますが、磐田市ではバイオマス発電の実現はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>本市においては、バイオマス発電の具体的な計画は現在のところありません。計画案 20 ページに記載した地域の特色とは、日照時間が長いこと、風況に恵まれていることを主に指しています。具体的には、市が進めていることでは小型風力発電の実証実験や、小水力発電を民間企業と協力して導入したということがあります。また、報道等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、ガス発電で発生した熱と二酸化炭素を農業に活用するといった新規事業がここでいう地域の特色</p>

	<p>を活かしたものとなると考えています。ただ、ご意見のとおりバイオマス発電についても、一つの施策として考えていかなければならないと認識しています。</p>
<p>委員</p>	<p>普及版についてですが、写真を掲載するのならばその写真がどの場所であるか記載した方がその場所が分かるので良いと思います。また、小学生をはじめとする子ども達に普及していくためには文章では分かりにくく伝わりにくいと思います。磐田には、色々な施設や歴史があります。それらが例えばすごろくのような遊びながら学べるようなものであると、遊びの中で覚えることは頭に残るので実際にその場所に行った際に認識し覚えることが出来ると思います。そういったことから「遊び」を入れてもらえると良いと思いました。大人向けと子ども向けと作成するのも一つの方法で見やすくなると思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>普及版にはぜひモリアオガエルや桜などの写真も入れて欲しいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>大切なご意見として検討していきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>計画案 21 ページ、目標 5-3「低炭素型社会の推進」の中でEV（電気自動車）の普及促進に努めるとありますが、市民・事業者の取組みとしては「導入を検討する」とありますが「変換する」といった表記でも良いくらいです。また、EV購入の補助をしていくことがあっても良いくらいだと思います。海外の現状等と比較すると日本は進んでいませんが、磐田市だけは先進都市として先に進むくらいでも良いと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>第2次環境基本計画では第1次環境基本計画と比べて、環境指標が少なくなりました。例えば「市役所のノーカーデーの実施率」や、「海岸清掃ボランティア活動参加者数」などです。このような指標がなくなったことで参加者数などが減る可能性を無くすためにどのように</p>

	<p>考えているのでしょうか。</p> <p>事務局 「市役所のノーカーデーの実施率」や「グリーン購入調達率」など市が行う事務事業については、市で取り組んでいる環境マネジメントシステム「エコアクション 21」のシステムの中で目標を設定し進捗状況等を管理してまいります。その他の指標についても他計画で目標としており、また「まち美化パートナーの合意件数」などは道路管理部門や公園管理部門で引き続き取り組んでいますので、そこで進捗状況を把握し継続して取り組みを続けるようにしてまいります。</p> <p>議事(2)第1次磐田市環境基本計画（後期基本計画）の評価について  <b>【説明概要】</b>事務局（環境保全グループ 副主任）  ・上記内容について資料「第1次磐田市環境基本計画（後期基本計画）の評価」を用いて説明した。</p>
<p>委 員</p>	<p>資料11ページ「重点プロジェクト3 遠州灘海岸・再生プロジェクト」において、ウミガメの放流について記載しておりますがこのことは評価として取り扱うことを間違っていると認識しなければなりません。ウミガメの保護自体は行うべきやるべきことです。しかし、やり方を考えなくてははいけません。子ども達に環境について体験してもらうための一つの方法ですが、やるべき方法ではありません。海岸の砂浜を守るために行うべきことはまず自動車が立ち入らないようにするためにどうするか考えることだと思います。</p> <p>自然環境を守るということはどういうことなのかしっかりと捉えていかなければならない。ですから、環境基本計画の評価の中で取り上げることはありませんので、修正できるようでしたら修正をお願いします。</p>
<p>委 員</p>	<p>私達も数年前にウミガメの放流を年に1回行っていました。ただ、ウミガメの放流が第一の目的ではなくて、それに加えて海岸清掃を続けて行いましょうという目的で小さいお子さんから大人までゴミ袋</p>

	<p>を必ずいっぱいにする活動を行っていました。今のお話しをお聞きすると必ずしも正しいことをしていたのではないと思いました。</p> <p>自治会などで海岸清掃を行うと声を掛けても役員が出席するだけで自発的に海岸清掃に参加する人が集まりません。手段として例えばウミガメの放流を絡めるとたくさんの人数が参加して結果としてその後海岸がきれいになることも事実です。ですから、別の形にシフトしていけるのであれば一番良いかなと思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>大切なことは、善意の気持ちは大切にしなければなりません。そして、その善意が正しい行動に結びつくことが重要です。そういった取り組みの主催者やリーダーの方達の勉強会を開くことが必要だと感じます。</p>
<p>委 員</p>	<p>ウミガメの放流については、来年度私たちも計画しています。目的は子ども達の参加ですが、今までその手段が正しいかどうかを認識していませんでした。検討が必要で考えてみたいと思いました。</p>
<p>委 員</p>	<p>そもそもなぜ海岸の清掃をしなければならなくなったのかを考えなければなりません。海岸に流れ着くごみは全て人間が流したごみです。人間の後始末をするのではなく、根本として本当は何をしなればならないのか教えるべきですしそういった機会を作っていかなければならないと思います。</p> <p>誤解を招かないように、どのように説明して何をしなければいけないかみんなで考えることが必要です。海岸清掃なども参加者はいつも同じです。事業展開し広げていくための方法は何か考えるべきだと思いますし、豊富な自然を持つ磐田市が自然や環境に関して先進市になるべきだと思います。そのためにたくさんの知る機会を作っていただけたら良いと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>自然を守るということは、手を入れるということではないですが、里山は少しでも手をいれないと守れません。その兼ね合いが大変難し</p>

	<p>くて、今年もどのようにするか検討しているところです。ただきれいにすれば良いのではなくて、自然を相手にどのようにするかということを感じています。どこまで手を入れていくのか、勉強していく必要があります。</p>
<p>委員</p>	<p>12 ページの重点プロジェクト4 きれいな水・うるおいプロジェクトの数値目標において「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素・基準達成率」がD評価ですが、実際今磐田市内で地下水を飲んでいる方はどれくらいいるか分かりますか。また、これらの結果の広報等を行う必要があると思いますがいかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>地下水を飲んでいる方についての数値は持っていません。ただ、磐田市の水道水源についても天竜川の伏流水という形で岩田地区に井戸があり水を汲んで地下水を利用しています。</p> <p>硝酸性窒素等の指標については、肥料等の影響で高い数値が出てしまっている磐田原台地とその縁辺だけを絞って調査しているため評価が悪くなってしまっています。調査箇所の結果については井戸所有者にその結果をお知らせしています。</p> <p>地下水については、その管理と水質検査等については設置者にその義務がありますので、市で市内すべての地下水使用とその水質について調査した結果を持っておりません。</p>
<p>委員</p>	<p>県で実施している濃度低減のための取組みとはどんなことでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>施肥のやり方を指導していると聞いております。</p>
<p>委員</p>	<p>市で独自に地下水の飲料使用の調査をし、また水質検査をする予定はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>水道事業管理者にいただいたご意見を伝えどのような広報の仕方</p>

	<p>があるか等確認をします。また、数値指標の公表する際には誤解のないようにしなければならないと再認識しましたので、今後その方法についても検討してまいりたいと思います。</p>
会 長	<p>水道局が管理している井戸や水道についてはしっかり検査をしていますので安心ですが、それ以外の自分で井戸を掘ってその水を使用している方もいらっしゃいます。そういった方々に対して市が保護できるかどうか考えなければならないかもしれません。</p> <p>様々な方々が安心できるような施策をぜひお願いしたいと思います。</p>
委 員	<p>ごみ減量についてですが、環境学習の一環として取り上げて学習する場を与えて欲しいと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ごみの減量については、例えば小学生を対象としたアースキッズ事業の中でも家庭で出るごみの量を計測しどれだけ減らせるかといった取り組みを行っています。また、クリーンセンターの施設見学や、消費者協会で実施しているレジ袋削減のためのマイバック運動など様々な取り組みを実施しています。資源循環型社会の定着を図るために発生抑制、再使用、再生使用の3Rの取り組みの推進し、様々な場所で啓発活動を今後も実施していきたいと考えています。</p>
委 員	<p>環境市民会議は今回が最後ということですが、今後も継続されるのでしょうか。現時点で分かっていることがあれば教えてください。</p>
事務局	<p>環境市民会議については、2年間の任期ということでみなさまにおかれましては今年度末をもって終了となりますが、来年度から第2次環境基本計画が始まります。第2次環境基本計画についても来年度新たな環境市民会議を開催し意見をいただき、評価を行っていきます。そういったわけで、環境市民会議については今後も継続し実施していきます。</p>

<p>会 長</p>	<p>第2次環境基本計画の中では新しい環境指標も入っておりますのでこれらの指標がどのように変化していくのか興味深いところです。指標以外のところが見えなくなってしまう可能性はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>環境指標そのものは57項目から18項目に削減しましたが、評価を実施する際には、様々な見方から評価を行い、評価の仕方を工夫して取り入れて環境市民会議で意見を頂くなど行っていきたいと考えています。</p> <p>また、磐田市の騒音、振動、大気や水質など環境関連の調査結果については、「いわたの環境」という冊子にまとめて磐田市のホームページ上で公表をしています。そういったところでも磐田の環境を市民の皆様を確認いただけるようによりPRをしっかりと行っていかなければならないと感じています。</p>
<p>会 長</p>	<p>たくさんのご議論をいただきありがとうございました。皆様方のおかげで第2次環境基本計画についてはコンパクトでまとまったものが完成したのではないかと思います。コンパクトではありますが、非常に多岐に渡っておりますので内容は豊富なものになっていると思います。今後、これをいかに実現していくかですが、市だけではなく市民、事業者それぞれみんなで常に高い意識を持ち、協働することにより実現していくものだと感じます。</p> <p>計画の資料編には「磐田市環境基本条例」が掲載されています。これが原点ですので何か活動を始めるときなどにはこの条例に基づく考え方を拠り所にしていくことが大切だと思いました。</p> <p>それでは、2年間お付き合いいただきありがとうございました。ここで議事を終了といたします。</p> <p>(5) その他連絡事項 (6) 閉会（環境課課長補佐）</p>